

優しき言葉さくが嬉し

水橋 康子

なつかしき山もこえたり橋ひとつ

渡らば岸にたれか待つらん

設樂 御幸子

吾門の一本まつも見え初めぬ

昔遊びし野路をこゆれば

鈴木 安子

語るへぎはえはなけれど夏毎に

歸るも嬉し故郷のいへ

印 東 益子

ひと時も早く歸らんふるさとの

親兄弟よ如何にまつらん

印 東 昌綱

今つさし我子の文を手にとりて

明日を待ちわふる親心哉

佐々 木信綱

夏ごとに歸りなれたる故郷は

父いまさねど戀しかりけり

梅雨晴

横山 碩

晴れぬとて喜ぶひまもなかりけり

村雲あやしきみだれの空

諏訪 忠元

さみだれは今朝しもやみぬ梅の實の

うみしころも晴れ渡りつゝ

矢田 香園

梅雨のはれし軒端をながむれば

洗ひてきよき松の色かな

くちなしの花

東くめ子

くちなしの花のをとめで物いはで

たいうちをみてうなづくがあはれ

たむくべきかくつきどころ道遠み

手折りこし花はしをればてにけり